

犯罪遭遇率は日本の100倍!?

数字から読み解くヒューストンの治安

ガルフストリームでは、安全・危機管理の一環として毎年ハリケーンと冬の寒波に備えた注意喚起を行っており、今月号でもハリケーンについての特集を組んでおります。これらはヒューストン特有の自然災害を対象にしていますが、本稿ではより日常的に発生している強盗や窃盗といった犯罪に関して、日本と比べてどれだけ遭遇しやすいのか、その発生件数を基に紹介いたします。

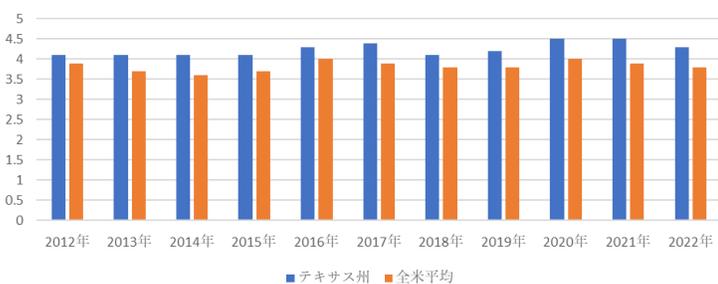
筆者自身はヒューストンに駐在して今年が3年目になりますが、幸いなことにこれまで犯罪に巻き込まれた経験はなく、ともすると治安の悪い米国に住んでいるという自覚が薄くなることがあります。これまで漠然と米国は日本と比較して犯罪が多い国という認識はありましたが、今回改めて統計的な数字に基づいて、テキサス州やヒューストンの治安について、日本と比較してどの程度犯罪に遭う確率が高いのかを調べてみました。

米国では毎年FBI(Federal Bureau of Investigation: 米国連邦捜査局)が全米の各自治体の法執行機関(警察署等)からの報告を基に犯罪の発生件数を公表しています。犯罪の種類は細かく分類されていますが、ここでは殺人や強盗、暴行といった「凶悪犯罪」と、盗難や車上荒らし、車両窃盗といった「窃盗犯罪」(放火も含む)の二つに大別して見ていきます。

まず「凶悪犯罪」について。図1のグラフは2012年から2022年までの、人口1千人あたりの凶悪犯罪の発生件数を示しており、テキサス州と全米平均を比較しています。いずれの年もテキサス州が全米平均を上回っており、11年間の平均ではテキサス州では1千人あたり4.2件の発生頻度で、全米平均3.8件の約1.1倍となっています。テキサス州は米国の中でも比較的治安が悪いと言えますが、これらの発生頻度は日本と比べてどの程度高いのでしょうか?

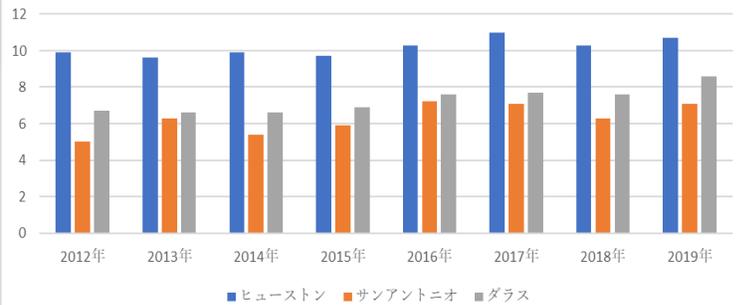
日本では警視庁が同様に犯罪の発生件数(認知件数)を毎年公表しています。米国の統計とは分類が少し異なりますが(例えば放火は凶悪犯罪に含まれています)、発生件数を日本の人口で割ることにより、米国とおおよその比較をすることができます。試算の結果、日本の凶悪犯罪の発生頻度は同期間の平均で1千人あたり0.09件となります。文字通り桁違いに発生率が低い米国と日本を同じグラフ上で比較することはできませんが、テキサス州は日本より50倍近く凶悪犯罪に遭う確率が高いと言えます。

図1: テキサス州と全米平均の凶悪犯罪数 (人口1,000人あたり)



続いて図2ではテキサス州のうち3大都市のヒューストン、サンアントニオ、ダラスの凶悪犯罪の発生件数を示しています。FBIでは都市別の統計は2019年までしか公表されていないため、ここ数年の比較ができていませんが、ヒューストンは3都市の中で一番発生率が高く、いずれの年も全米平均の倍を超えており、平均で1千人あたり10.2件の発生件数(100人に1人が凶悪犯罪に遭遇)となっています。他方、日本の大都市である東京都の凶悪犯罪の発生頻度を試算すると、同期間の平均は1千人あたり0.12件となります。従い、ヒューストンで凶悪犯罪に遭う確率は東京都の約85倍となります。

図2: 都市別の凶悪犯罪数 (人口1,000人あたり)



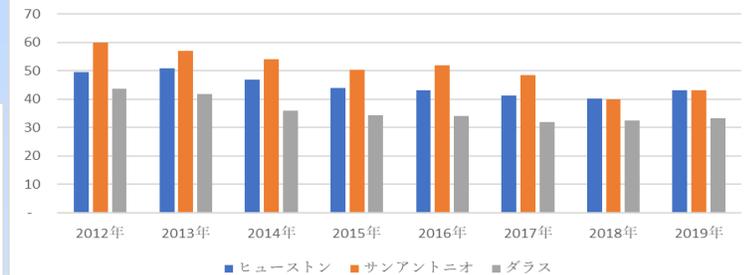
次に窃盗犯罪について。窃盗犯罪についても同様に、図3で1千人あたりの発生件数をテキサス州と全米平均とで比較、図4で3大都市を比較しています。窃盗犯罪は2012年から減少傾向にあります。凶悪犯罪と比べると発生頻度が格段に高くなり、期間平均で1千人あたりテキサス州は28.2件、ヒューストンは州平均の倍近い44.9件(100人中4-5人が窃盗犯罪に遭遇)となります。

日本は2012年以降米国以上に窃盗犯罪が大幅に減少しており、期間平均では日本全国の1千人あたりの発生件数は0.71件、東京都は0.67件です。従い、ヒューストンの発生頻度は東京都の約67倍となります。但し、2022年の東京都の発生件数は0.19まで下がっているため、直近では比較倍率はさらに大きくなっているものと思われます。

図3: テキサス州と全米平均の窃盗犯罪数 (人口1,000人あたり)



図4: 都市別の窃盗犯罪数 (人口1,000人あたり)



ヒューストン市内でも治安状況は地域や時間帯によってバラつきがあるとは思われますが、これまで見てきたように統計的な数字からヒューストンの治安の悪さが再認識できたことと思います。少し乱暴な言い方ですが、ヒューストンは日本と比べて100倍近く治安が悪いという心構えでいる必要があると思われれます。

最後に、犯罪に遭うことを未然に防ぐためには、やはり日本以上に注意を持った行動が大切となります。夜間危険な所には出歩かない、人気のない所を一人では歩かない、車には貴重品や鞆を放置しない、荷物からは目を離さないといった基本動作を徹底して頂ければと思います。

なお、在ヒューストン日本国総領事館のホームページでは、[安全・防犯情報](#)としてより幅広く具体的な安全対策が「安全の手引き」として纏められていますので、こちらもご覧頂ければと思います。

(安全・危機管理特命理事 竹原 優)